

# 防災官の声

# 7

2024年

## 退職自衛官採用のメリット

自衛隊在任間に培われた、災害対処の実務能力※は、地方公共団体の危機管理対処能力を向上させます。

また、防災行政に関する首長等への的確な助言や自衛隊等関係機関とのネットワーク構築が期待できます。

### ※主な能力として

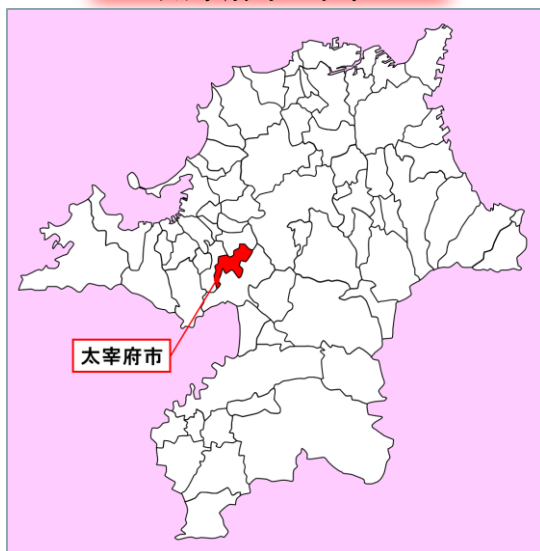
- ・指揮官が様々な状況に対し、的確な状況判断ができるよう補佐(情報収集、分析等)
- ・自衛隊の運用に関する知識と経験
- ・訓練指導能力及び調整能力などです。



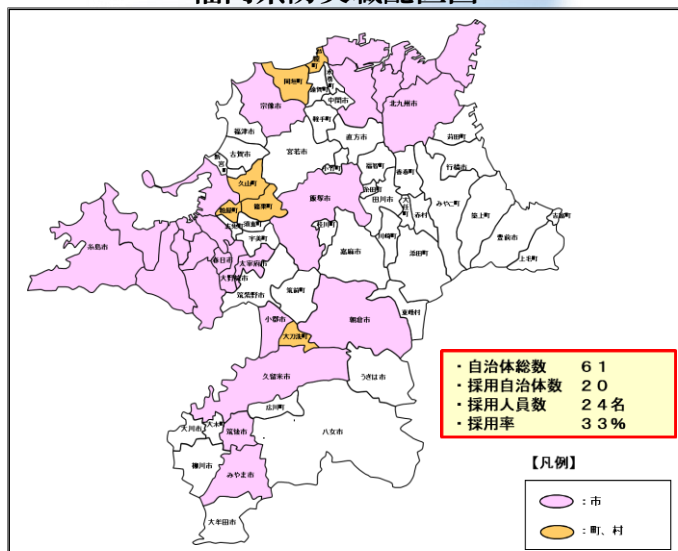
## 福岡県内の採用状況

福岡県を含む61市町村ある中の**20**の自治体に在籍。(掲載日現在) 今回は、**太宰府市**にご協力いただきました。

太宰府市の位置



福岡県防災職配置図





## 太宰府市の概要等

太宰府市 人 口 71,679人（令和6年5月末現在）

面 積 29.60km<sup>2</sup>

職員数 574名（会計年度任用職員含む）

太宰府市は、太宰府天満宮、九州国立博物館をはじめとする観光地を有し、過去最高は年間約1,000万人強、令和4年度は約730万人の観光客が訪れました。

本市は、福岡市南東約16kmに位置し、粕屋郡宇美町、筑紫野市、大野城市に隣接しており、北に四王寺山、東には宝満山の山地や丘陵地が広がり、市を縦貫する御笠川は、宝満山に源を発し、市街地をとおり鷺田川、大佐野川と合流し博多湾に注いでいます。



## 退職自衛官の採用について

本市は、1953年（昭和28年）以降、風水害による被害が19件発生しました。特に、2003年（平成15年）7月の豪雨による土砂災害では、甚大な被害が発生しその際、陸上自衛隊福岡駐屯地に災害派遣を要請しています。

その後、2009年（平成21年）に発生した中国・北部九州豪雨災害などもあり、自衛隊との連携の重要性を鑑み、危機管理能力を備えた退職自衛官の採用が、平成22年から始まりました。以後15年間、これまで三代の元自衛官による「防災専門官」が勤務し、現在に至っております。

## 防災専門官の仕事内容について

(平常時) 防災全般に関する業務

- ・小学生から大人に対する防災教育
- ・自主防災組織の組織化及び防災訓練の支援
- ・地域防災計画の経年変化に伴う改正
- ・防災関連、国民保護計画及びマニュアル改正
- ・災害担当部隊（第4後方支援連隊衛生隊）及び関係機関と連絡・調整
- ・職員・市民に対する災害対応訓練の立案及び訓練等の実施
- ・新規に業務継続計画（BCP）及び国土強靱化計画等を作成



## 退職自衛官の働きぶり



夏休み中の太宰府市内小学校に対する子供防災教育



市民に対する災害対応訓練



日本経済大学における防災士教育

## 退職自衛官の声

自衛隊退職後、約8年間地元企業で就職し、平成28年から太宰府市の防災専門官として勤務しています。自衛官として勤務した経験（災害派遣9回）と、退職後取得した防災士の資格を活かし、市役所職員の災害対応訓練、各種学校における防災教育、業務継続計画（BCP）の作成、自衛隊（災害担当部隊）との連絡・調整等、近年では、大学及び一般市民向けの防災士教育と幅広い防災の全般的業務を実施しております。



野田 秀敏 氏

自衛隊福岡地方協力本部  
で定年退職

(平成28年入庁)